

くまびょう

2005
91号
NEWSくまびょう
NEWS2005年
1月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519



新年のご挨拶

国立病院機構熊本医療センター
院長 宮崎 久義賀
正

新年明けましておめでとうございます。

昨年は国立病院の独立行政法人化、新臨床研修制度の開始、病院新築開始等、大きな変革の年でありましたが、先生方の暖かい御指導、御支援のもと、無事に過ごすことができました。ありがとうございました。

本年は独立行政法人化2年目を迎え、更なる医療の質の向上を目指しながら、地域の医療機関との機能分担と連携、教育・研修、臨床研究・治験、更に国際医療協力の推進に努めたいと存じます。

救命救急センターも3年目を迎え、なお一層の充実をはかりたいと思います。

本年も倍日の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年 元旦

第18回国立病院機構熊本医療センター=開放型病院連絡会開催のご案内

- | | |
|-----|---|
| 日 時 | 平成17年2月10日(木) 19時~21時 |
| 場 所 | 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター |
| 内 容 | 1. 紹介症例の呈示
2. 総合討論
3. 特別講演「医療制度の今後の展開について」
厚生労働省保険局医療課長 麦谷 眞里 先生 |

〈連絡先〉国立病院機構熊本医療センター管理課(仲地、上園)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



医療連携

外間整形外科医院
副院長 外間 裕人



当院は、国立病院機構熊本医療センターより電車通りを上熊本駅方面へ1.5km程行った本妙寺参道入口の場所で開業している有床診療所です。現在、院長の父と2人で診療しております。開業当初より国立病院機構熊本医療センターにお世話になることは多かったのですが、済生会熊本病院が移転してからは、患者紹介の大半をお願いしております。

又、私自身も平成13年に短期間ではありますが当時の国立熊本病院に勤務していました。開業してからも週に1回、整形外科の症例検討会と手術の勉強をさせて頂いております。

このように日頃よりお世話になっている国立病院機構熊本医療センターですが、特に整形外科患者さんの転院や治療で相談にのって頂ける野村先生をはじめとした整形外科の先生方や、当院にかかっておられる患者さんの状態が悪い時など相談にのって頂ける高橋先生をはじめとした救命救急センターの先生方には大変感謝しております。

現在、当院に帰ってから約3年が経ちましたが、大きな病院にいる時にはあまり気にならなかった患者さんの症状（症状がひどくなったら手術したり、他科にみてもらったりすればと考えていた）も、本当に経過をみるだけでいいのか？夜間に重症化したら当院で対処できるのか？と不安になる事が多いです。ですので、国立病院機構熊本医療センターでの治療の適応があるかどうか悩みながらも相談してしまいます、そのような時、どの先生も「すぐいいですよ」と言って頂けるので安心して相談できます。

国立病院機構熊本医療センターは、当院がこの地域でかかり医として患者さんに安心して来院して頂くのに欠かせない病院であります、その事に甘えてばかりでなく、当院も国立病院機構熊本医療センターの先生方や患者さんに信頼され続けられるように一層の努力をしていきたいと思っております。

どうかお体に気をつけられ、ますますのご活躍を期待しております。

パネリストの御発言 「国立病院機構熊本医療センター開放型病院の利用について」その4

第17回開放型病院連絡会のパネルディスカッションでのパネリストの先生方の発表内容の要旨と病院からのご返事をお1人ずつ5回にわけて掲載します。今後の改善に役立てたいと思います。



保利病院
保利 哲也 先生

熊本市外の救急病院として保利病院の現状をご紹介頂いた後、高次病院への転送の基準として、距離、患者家族の希望、受診歴有り等をあげられました。また鹿本地区の無床診療所から国立病院機構熊本医療センターへ紹介された患者が退院する時に自宅に帰れるまでの一時入院を受け入れているが、病状から本来の紹

介元に返せない状況を説明頂きました。その他、退院時診療情報提供書に服薬内容、感染の有無等の記載が無いこと、救命救急センター外来にバックボードが無いこと等をご指摘頂きました。

お答え：救急患者のご紹介、また転院の受け入れ、その際の病院車での送迎など大変お世話になり有り難うございます。長期入院患者の対応にはどの病院も苦慮されている現状がよくわかりました。退院時の情報提供書に感染の有無、処方等診療内容をすべて含んでいる退院時サマリーを添付するようにしていますが、今後さらに徹底するように努めます。バックボードの購入は検討致します。（副院長 池井 聡）

2005年
診療科紹介(16)
耳鼻咽喉科



土生 健二郎
耳鼻科一般、耳疾患、
眩暈、鼓室形成術
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
日本耳鼻咽喉科学会評議員
熊本大学医学部臨床教授



松本 裕孝
耳鼻科一般、
鏡視下鼻副鼻腔手術
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医



野口 聡
耳鼻科一般、
耳疾患、鼓室形成術
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医



春野 尊
耳鼻科一般

特色

耳鼻咽喉・口腔領域と同時に顔面、頸部の疾患、即ち唾液腺、甲状腺、頸部腫瘍、炎症、外傷などを扱っていますが、中でも耳関連疾患が中心となっています。真珠腫性中耳炎、単純性慢性中耳炎、滲出性中耳炎、突発性難聴、顔面神経麻痺（ベル麻痺、Ramsay-Hunt症候群、外傷性麻痺）、耳性めまい疾患などが入院患者の多くを占めています。特に中耳炎における鼓室形成術に力を入れており、中耳機能の回復及び再発防止に対する手術成績の向上を目指し努力しているところです。

もう1つの診療の柱は鼻副鼻腔疾患の鏡視下手術で、従来の歯肉部や顔面に切開を加えない低侵襲手術が可能となり、適応拡大を図っていますが、最近では眼科と共同で鼻涙管閉塞に対し涙嚢鼻腔吻合術に着手しています。

診療実績

平成15年度の外来新患は2,117人、新入院患者665人、平均在院日数15.9日、手術総数は314件、そのうち耳疾患手術が163件で52%を占めています。図は最近10年間のデータですが、手術件数に大きな変動がないのに比し、新入院患者は略倍増しています。これは当院の救急外来が年々整備充実されるに伴い、鼻出血、めまい、急性炎症、外傷などの緊急入院が増加し、その多くが保存的治療の短期入院症例であることによると思われる。

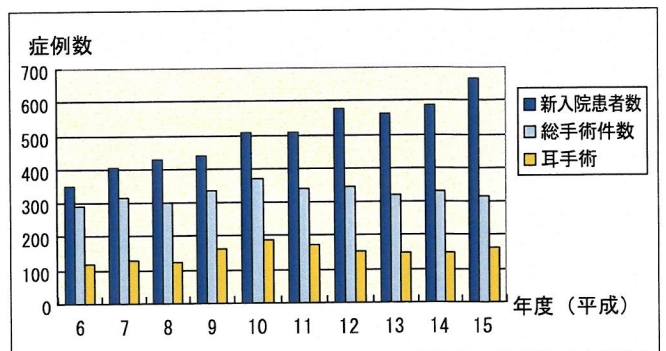


図 最近10年間の新入院患者数と手術件数

最近のトピックス

自然排尿型新膀胱 (neobladder)



泌尿器科医長

菊川 浩明

多くの膀胱癌は内視鏡的切除 (TUR) で治療可能ですが、一部の膀胱癌は浸潤性で集学的治療が必要になります。当科では、以前より放射線科の協力のもと、抗癌剤動脈内注入療法+放射線照射により、この浸潤性膀胱癌に対しても積極的に膀胱温存で治療を行ってきましたが、やはり、癌の根治を目的とした場合、膀胱全摘もやむを得ない症例にも遭遇します。膀胱を摘出すれば、尿路変更が必要になります。これまで、回腸導管あるいは尿管皮膚瘻が標準的尿路変更術でしたが、これらの尿路変更にはストーマが必要となります。当科では、新しくストーマの不要な尿路変更として自然排尿型尿路変更術 (Studer法) を取り入れ、2003年8月より現在まで5例の患者様に行いました。術式としては回腸の血流を保ったまま60cmほど切り出し、脱管腔化し (図1) 球形の袋状に縫い上げます (図2)。これを新膀胱とし (図3)、尿管を吻合した後、尿道に縫合します。もちろん、正常の膀胱という訳にはいきま

せんので、尿意は感じませんが、下腹の張りを目安に腹圧で排尿可能です。従来の回腸導管に比べ、手術時間は2時間ほど (平均8時間程) 長くかかりますが、術後の経過も良好で自排尿が可能です。

手術の適応ですが、腎機能正常 (元々腸管である新膀胱より、尿の一部が再吸収されます)、前立腺尿道部に癌が無い事 (尿道を残すため) が第一条件です。残尿が多い場合は1日1回ほど自己導尿も必要な場合がありますので、ある程度自立した人が適応になります。当科では、これで、すべての尿路変更術を治療選択肢として提供出来るようになりました。現在、熊本県下で自然排尿型尿路変更術を行っているのは当院だけです。今後は、新膀胱の長期成績についても、さらなる検討を行う予定です。

最後に、痛みを伴わない真っ赤な尿が時々出る。これが最も重要な膀胱癌のサインです。

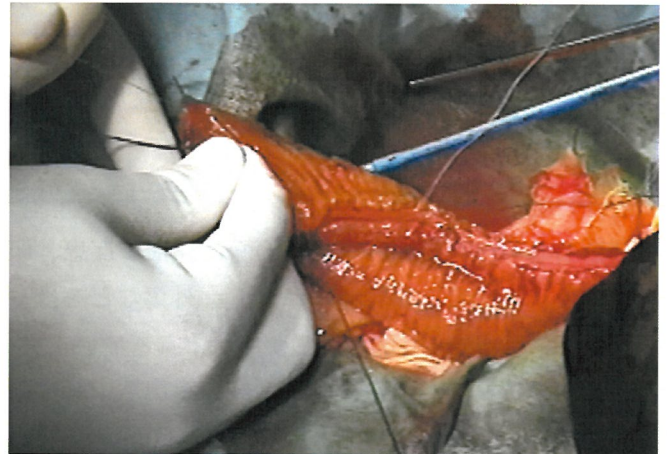


図2 腸管縫合

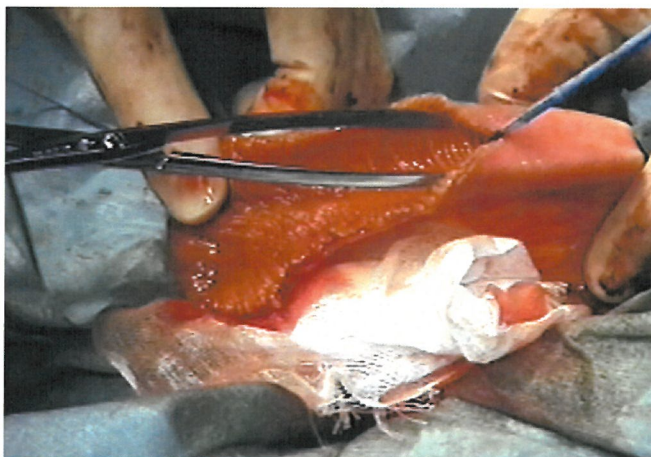


図1 腸管の脱管腔化

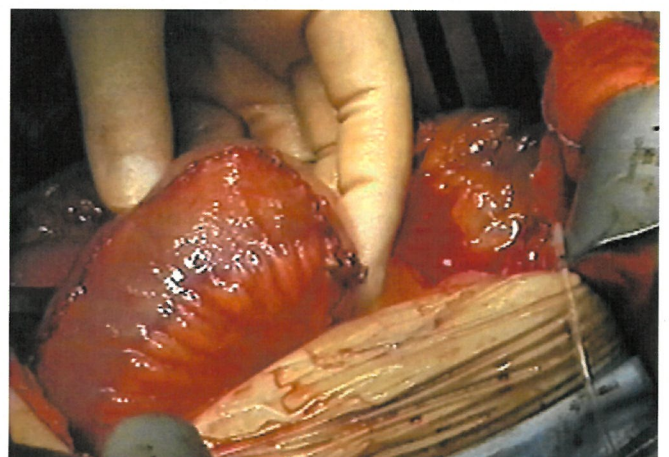


図3 新膀胱

第10回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

下記の日程で国立病院機構熊本医療センター医学学会を開催します。多数のご参加をお待ちします。

日時：平成17年1月15日（土）・16日（日）

場所：国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

平成16年1月15日（土曜日）

開会の辞 8:50～9:00 院長 宮崎 久義

A. 一部 9:00～12:00

1. 麻酔科外来を受診するneuropathic pain患者の現状
麻酔科 上妻 精二、田尻 晃彦、谷本 宏成、瀧 賢一郎、江■ 公明
 2. 気管形成手術時の気道確保について
麻酔科 谷本 宏成、瀧 賢一郎、上妻 精二、田尻 晃彦、江■ 公明
 3. バッグバルブマスク（アンビューバッグ）消毒に伴う中央管理に向けて
臨床工学技士 川内 直、竹本 勇介、新木 信裕、田代 博崇
看護部 下地 美千代
麻酔科 江■ 公明
 4. チームリーダーの育成を促す師長の役割
看護師長研究会 吉岡 薫、山田 淳子、上原 真知子
 5. 臨床実習指導者・病棟スタッフの看護学生の指導に対する意識の向上を目指して
看護学校 井樋 三幸、井上 和也、田中 直美
-
6. 急性期脳内出血における血圧の上昇—出血部位、血腫量との関連について—
脳神経外科 佐藤 恭一、大塚 忠弘、濱崎 清利、大田 和貴
 7. 回腸利用新膀胱形成術の経験
泌尿器科 本多 次朗、田上 憲一郎、陣内 良映、土岐 直隆、菊川 浩明
堀尾内科医院 堀尾 豊
平山泌尿器科医院 石松 隆志、平山 英雄
熊本泌尿器科病院 井 秀隆、清崎 寛、野尻 明弘
 8. Reactive angioendotheliomatosisの一例
皮膚科 青井 淳、横山 眞為子、三角 修子、前川 嘉洋
循環器科 梶原 一郎
 9. 副看護師長としての管理能力の向上を目指して—システム思考を活用して—
副看護師長研究会 南利 朱美、山口 幹江、清田 喜代美
-
10. クリティカルパスと看護記録に関するスタッフ教育の効果
副看護師長研究会 河野 敬子、大岩 孝行、釜崎 美和、田上 美香子、坂本 めぐみ、中重 敬子
 11. 大腿骨頸部骨折患者用連携パスの作成
リハビリテーション科 出口 敬浩、榎橋 政和、早田 尊彦、中山 幸子
整形外科 野村 一俊、橋本 伸朗、福元 哲也、井 賢治、廣瀬 隼、田中 あづさ
 12. 腰部疾患連携パスの問題点と対策
リハビリテーション科 中山 幸子、榎橋 政和、早田 尊彦、出口 敬浩
整形外科 橋本 伸朗、野村 一俊
 13. PTの大腿骨頸部骨折シームレス研究会への参加状況
リハビリテーション科 榎橋 政和、早田 尊彦、中山 幸子、出口 敬浩
整形外科 野村 一俊、橋本 伸朗、廣瀬 隼
看護部 岩永 眞知子
 14. 大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会の活動について
整形外科 廣瀬 隼、野村 一俊、橋本 伸朗
かたおか整形外科 片岡 康文
熊本回生会病院整形外科 大橋 浩太郎
熊本中央病院整形外科 清水 寛一
済生会熊本病院整形外科 米村 憲輔、西田 公明
青磁野リハビリテーション病院整形外科 金澤 親良
外間整形外科医院 外間 裕人
にしくまもと病院整形外科 林 茂

15. 急性硬膜下血腫の1乳児例
小児科 池田 洋一郎、森永 信吾、中田 絵美、高木 一孝
16. 当院におけるNST活動の現状について
栄養管理室 尾上 陽子、西久保 百合子、南郷 有佳里、浅井 和子
外科 松崎 法成
皮膚科 前川 嘉洋
17. 薬物療法を受けるうつ病患者の認知状況を通じて一服薬指導のあり方を考えるー
別館5病棟 笹原 結、池田 洋子、城下 賢、松本 メグミ
18. アレルギーカードについて
薬剤科 鶴崎 泰史、中川 義浩、和田 吉晴
19. R-CHOP療法クリティカルパスに連動した薬剤管理指導チェックシートの作成と使用
ー薬剤管理指導の標準化に向けた取り組みー
薬剤科 林 稔展、東島 彰人、和田 吉晴

休 憩 (11:51~13:00)

DPCを理解しよう

産業医科大学医学部公衆衛生学

松田 晋哉

休 憩 (14:00~14:10)

B. 二部 14:10~17:55

20. 術中細胞診で確定診断した腺癌類似の組織像を示すstuma ovariiの1症例
研究検査部 船瀬 将一、太田家 由美、加藤 裕一、東原 悦子、廣瀬 英治
臨床研究部病理 村山 寿彦
産婦人科 永井 隆司、三森 寛幸
21. 両側下顎大臼歯部に発生したセメント質骨異形成症の1例
歯科口腔外科 小林 聡、中山 越賀、寺島 貴史、河上 恭子、児玉 美穂、片岡 奈々美
緒方 誠人、蔵本 和咲、児玉 罔昭
22. 当科における外陰パジェット病 8例の検討
産婦人科 福田 潤一郎、鄭 俊明、永井 隆司、三森 寛幸
23. 異所性萌出歯より発症した歯原性嚢胞の1症例
耳鼻咽喉科 春野 尊、松本 裕孝、野口 聡、土生 健二郎
歯科口腔外科 片岡 奈々美
24. 眼内悪性リンパ腫が疑われた1例
眼科 行徳 雄二、米村 昌宏、手島 倫子
脳神経外科 佐藤 恭一

25. 国立病院機構熊本医療センター搬送の院外心肺停止症例の検証
熊本市消防局救急課 千場 和貴、金子 忠明、池田 光隆
26. 国立病院機構熊本医療センターにおける救急研修ステーションの展望
熊本市消防局救急課 藤林 智彦、竹林 幸知、後藤 達広、金子 忠明
27. プレホスピタルケアにおける外傷評価の標準化
熊本市消防局西消防署 平川 雅敏、下山 考慈、白石 賢司、葉山 正人
28. 当院救命救急センターに搬送された急性期脳梗塞患者の頭部CT所見よりの知見
ーearly CT signの出現時間についてー
救命救急センター 高橋 毅、宮内 大介、大磯 洋、原田 正公、橋本 聡、吉岡 明子
29. CPA患者記録票(ウツタイン様式)に基づく2003年熊本県下の院外心停止事例の解析
救命救急センター 吉岡 明子、宮内 大介、大磯 洋、原田 正公、橋本 聡、高橋 毅

30. 低Na血症治療中に悪性症候群をきたした1症例
救命救急センター 宮内 大介、大磯 洋、原田 正公、橋本 聡、吉岡 明子、高橋 毅
31. 自己性器切断の2症例
救命救急センター 橋本 聡、原田 正公、宮内 大介、大磯 洋、吉岡 明子、高橋 毅
精神神経科 渡辺 健次郎
泌尿器科 陣内 良映

32. コリン作動性クリーゼによると思われるCPAの1例
救命救急センター 原田 正公、宮内 大介、大磯 洋、橋本 聡、吉岡 明子、高橋 毅
33. 心筋症によりCPAとなったFabry病の1例
救命救急センター 大磯 洋、原田 正公、宮内 大介、橋本 聡、吉岡 明子、高橋 毅
34. 平成15年度の国立病院機構熊本医療センターにおける精神科救急医療の現状について
精神科 武井 宣之、原田 正公、菊池 陽子、橋本 聡、山下 建昭、渡辺 健次郎
こころの医療センター 松本 武士
熊大附属病院神経精神科 兼田 桂一郎
救命救急センター 高橋 毅、吉岡 明子

35. がん化学療法における患者主体の副作用対策—自己管理用ツールを導入して—
本館西1病棟 黒野 七重、東 妙子、河野 敬子、上原 真知子
36. M T Xにより著明な白血球減少を来した関節リウマチの1例
血液内科 笹尾 明、井上 佳子、稲田 知久、長倉 祥一、日高 道弘、塚本 敦子、清川 哲志
臨床研究部 河野 文夫
37. 骨髄癌腫症を呈した原発不明癌の1例
血液内科 早田 学、井上 佳子、稲田 知久、長倉 祥一、日高 道弘、塚本 敦子、清川 哲志
臨床研究部 河野 文夫
臨床検査科 村山 寿彦
伊東歯科 岸田 剛

38. 葉酸欠乏性貧血3症例の検討
血液内科 太田黒 智子、井上 佳子、稲田 知久、長倉 祥一、日高 道弘、
塚本 敦子、清川 哲志
臨床研究部 河野 文夫
新町いえむらクリニック 家村 昭日朗
つる整形外科 津留 隆行
青磁野リハビリテーション病院内科 山下 耕一
臨床検査科 富永 良介
39. Congenital dyserythroietic anemia (CDA) の1症例
臨床検査部 宮川 清隆、澤見 彩、丸尾 知子、荒木 克巳、加藤 裕一、富永 良介、廣瀬 英治
40. 移植後患者と管理栄養士の関わり
栄養管理室 西久保 百合子、尾上 陽子
血液内科 長倉 祥一、日高 道弘
看護部 高瀬 和泉、西岡 美佳、上原 真知子

41. 肝臓領域におけるCT-Angiographyの検討
放射線科 市川 和幸、丸山 裕稔、廣瀬 親、田畑 信幸、田上 俊一
42. CRリニアックグラフィーの画質の検討
放射線科 堀上 英昭、浦本 雅巳、丸山 裕稔、田畑 信幸、田上 俊一
43. 201 T 1心筋SPECT画像における画質向上について
— Butterworth filterの最適遮断周波数の検討—
放射線科 松延 寛、橋本 修、有迫 哲朗、田畑 信幸、田上 俊一
44. MDCTを使用した頭部3D CTAにおける撮像方向の検討
放射線科 荒木 裕至、鈴木 保子、富高 悦司、吉松 俊治

平成16年1月16日(日曜日)

C. 三部 9:00~12:00

45. 当院における鏡視下食道手術の検討
外科 井田 智、池井 聰、片淵 茂、芳賀 克夫、山下 眞一、松崎 法成、
甲斐 幹男、吉田 直矢、富樫 陽彦、辛島 龍一
46. 外傷性脾損傷の検討
外科 辛島 龍一、池井 聰、片淵 茂、芳賀 克夫、山下 眞一、松崎 法成、
甲斐 幹男、吉田 直矢、富樫 陽彦、井田 智
放射線科 吉松 俊治、荒木 裕至

47. 外傷性腓損傷の検討
外科

富樫 陽彦、池井 聰、片瀨 茂、芳賀 克夫、山下 眞一、松崎 法成、
甲斐 幹男、吉田 直矢、井田 智、辛島 龍一

48. 甲状腺機能亢進症による急性心不全の4症例

循環器科 大庭 圭介、石井 規夫、梶原 一郎、高添 啓二、宮尾 雄治、藤本 和輝

49. 当院での80歳以上の胸部大動脈手術の検討

心臓血管外科 川田 康誠、毛井 純一、森山 周二、岡本 健

50. 心臓手術を受ける患者の手術前、手術後の不安

—患者用クリティカルパス（入院診療計画書）を活用して—

別館1病棟 松本 和佳子、蔵田 多佳子、永野 智子、徳永 雄規

51. 特発性門脈圧亢進症の1例

消化器科 杉 和洋、本池 晋、中田 成紀、加茂 章二郎、前田 和弘

外科 辛島 龍一、山下 眞一、片瀨 茂

下田内科クリニック 下田 光一郎

52. HCV抗体陽性の肝機能異常を伴い診断に苦慮した転移性肝癌の1例

消化器科 中田 成紀、加茂 章二郎、前田 和弘、杉 和洋

熊本機能病院 伊藤 彰彦

53. グルメ時代の落とし穴—生食によって重篤な病態となった2症例—

呼吸器科 森松 嘉孝

春陽会河津内科呼吸器科 秋吉 裕也、河津 武俊

東京医科歯科大学大学院

国際環境寄生虫学分野 赤尾 信明

久留米大学第1内科 相澤 久道

54. 直腸利用膀胱拡張術約40年後に著明な高Cl⁻性アシドーシスを認めた1例

内科 植川 顕、白石 直樹、富田 正郎、坂梨 剛史、東 輝一朗、河野 文夫

熊本機能病院整形外科 加藤 敏次

55. 全身多発性皮下膿瘍を合併した糖尿病の1例

代謝内科 市原 ゆかり、青木 由香、大磯 洋、石井 規夫、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

皮膚科 前川 嘉洋

56. 効果的な学生指導のための看護師へのアプローチ—まず、看護師から変わろう—

本館東2病棟 香月 麗、植森 京子、紫垣 良枝、山田 淳子

57. 院内感染サーベイランス —NC調査18年間の成績と解析—

臨床検査部 川崎 達也、若松 朋大、廣瀬 英治

看護部 辻 里美、中重 敬子、大石 信子

臨床研究部 河野 文夫

58. 聴性脳幹反応（ABR）にて確定された機能性（心因性）難聴の1例

臨床検査科 坂井 綾子、河上 麗子、岩本 麻里、垂水 綾、丸尾 知子、竹内 保統、佐々木 妙子、廣瀬 英治

耳鼻咽喉科 土生 健二郎

59. 腹部エコーにて偶然に見つかった右腎動脈瘤の1例

臨床検査科 垂水 綾、岩本 麻里、河上 麗子、丸尾 知子、竹内 保統、坂井 綾子、佐々木 妙子、廣瀬 英治

消化器科 杉和 洋

60. 医療情報連携室の活動について

地域医療連携係長 米村 嘉彦

61. 耳手術後の洗髪時期の短縮

本館西3病棟 作守 留美子、栗原 由貴美、真崎 香織、隈部 孝子、吉岡 薫

62. ペニシリン投与によりパーキンソニズムが改善した神経梅毒の1例

神経内科 幸崎 弥之助、高松 孝太郎、田北 智裕

63. 意識障害を伴う甲状腺中毒症状を契機に診断されたBasedow病の1例

代謝内科 石井 規夫、青木 由香、大磯 洋、市原 ゆかり、高橋 毅、小堀 祥三、

東 輝一朗

前年度優秀発表者表彰

閉会の辞 11:50~12:00 副院長 池井 聰

研修 レポート

総合医療センター
内科
緒方智博



国立病院機構熊本医療センターで研修をさせて頂くようになって今月で8ヶ月を過ぎようとしています。いつの間にか時が過ぎたのかと思う反面、5月に辞令を頂いたことが遠い昔のように思われます。医師としてはもちろん、社会人としても未熟である我々に、非常に丁寧に、熱心に、時には厳しくご指導を頂き本当に感謝は尽きません。5月に赴任したばかりの頃は採血・

ルート確保一つするにも、手に汗を掻きながらやっていたことを思い出します。それが今では、習得には程遠いながらも、気管挿管やIVH、皮膚縫合や骨髄、胸・腹腔穿刺など多くのことを経験することができました。この点が今年より始まった新臨床研修制度の大きなポイントではないかと感じております。スーパーローテーション制であるため、外科・内科を問わず様々な科によって指導をうけられることができました。4～8週という短い期間ではありますが、各科の先生方の経験を少しでも多く吸収できるように日々努力しています。

残るところ3ヶ月となろうとしています。所属が短期間で変わることは、指導医の先生、我々共に大きな負担であることは否めません。だからこそ将来自分の所属を決め専門分野で仕事するようになったとき、大きな財産となるようしっかり研修を積み重ねていかなければならないと思っています。まだまだ、ご迷惑ばかりおかけすると思いますがご指導のほど宜しくお願いいたします。

臨床研修制度 平成17年度マッチングの結果について

来年度の研修医の研修施設を決定するマッチングの結果が10月末に発表されました。今回で2回目のマッチングとなり、全国的に学生の研修病院の選択が大学病院から市中病院志向が強くなり、また大都市志向が一層明らかになっています。市中病院に学生が集まる要因として、今回の臨床研修がコモン・ディゼズを重視し基本的な臨床能力を身に着けることを重要視している点が挙げられると思います。また、全国的に市中病院が「臨床研修での評価は急性期病院の勲章」といった認識を持ち、医師を育成するシステムを市中病院が持たなければならないという意識が浸透しているといえます。

今回のマッチングで、国立病院機構熊本医療セン

ターは12名の定員に対して12名マッチいたしました。昨年度が2名でしたので、当院指導医の取り組み、現研修医の方々の頑張りが学生から良い評価を得たものと思います。来年度はこの12名に加えて熊本大学プログラムの研修医も受け入れます。

また、現在研修2年間修了後の後期研修（レジデント）についても新しいプログラムを策定しております。幅広い臨床能力と高い専門性をかね合わせた臨床医を養成するために多くの医療機関が協力して幅広いカリキュラムを組むことを企画しております。

初期研修2年目には地域研修がはじまります。引き続きご指導、ご協力をよろしく願います。

(研修部長 清川 哲志)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

国際医療協力

薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース始まる

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成16年11月20日より「平成16年度第1回薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース」に8名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

本コースは、開発途上国における感染症診断に関す

る中心的な役割を果たしているラボラトリーの上位及び中堅技術者に、耐性菌発現の環境、メカニズムからサーベイランスまで幅広く最新の知識を提供し、その知識をもとに日本の第一線の病院現場において検査室での具体的な検査方法、精度管理及び感染対策を学んでもらうことを目的としています。

当院では、主に検査科で実習を行っており3月27日まで滞在予定です。（庶務班長 上園 直仁）

〔平成16年度 第1回 薬剤耐性病原体の実験室診断Ⅱ 集団研修コース〕



ケシャルビル・コホナ
（ボツワナ）
保健省 国立保健研究所
上席臨床検査技師



レジナルド・ロヒテシュ・チャンドラ
（フィジー）
植民地戦争記念病院
病理部 微生物科技師



ジョン・ケンプ
（インド）
ナーガールランド州保健局 医療技官
国家伝染病サーベイランス計画担当
微生物学研究者



ジェイムズ・ムイタ
（ケニア）
保健省 ニャフルル地方病院
臨床検査技師



ラケル・バリオス
（パナマ）
公衆衛生中央研究所
ゴルガス記念センター
臨床検査技師



フェリックス・アントニオ・ロサ・マウリシオ
（ペルー）
国立エドガルド・レバグリアティ・マルティンス病院 臨床検査技師



レーア・バグヌ・フローレス
（フィリピン）
地方保健局 ラグナ州立病院
第4 医療技官



チューダチャラ・ンハス
（タイ）
チュラロンコン大王記念病院
医学研究員

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

研修のご案内

第54回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成17年1月12日(水) 19:00~21:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授 荒木 栄一

「生活習慣病としての糖尿病」

国立病院機構京都医療センター院長 葛谷 英嗣

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL: 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

第72回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成17年1月17日(月) 19:00~20:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 特別講演「プライマリーケアでのCOPD・気管支喘息の診療」 久留米大学医学部第1内科教授 相澤 久道
日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501(代表) FAX: 096-325-2519

第41回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成17年1月20日(木) 19:00~20:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 急性動脈閉塞症に対する血栓溶解療法+血栓吸引療法
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 藤本和輝、大庭圭介、石井規夫、梶原一郎、高添啓二、宮尾雄治
 2. V型高脂血症に発疹性丘疹性黄色腫を伴った糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター 小堀祥三、青木由香、大磯洋、石井規夫、市原ゆかり、高橋毅、東輝一郎
なお、興味のある症例・ご疑問・ご質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
- [問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線796

第77回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成17年1月26日(水) 19:00~20:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：意識障害を伴う黄疸

(症例 56歳 女性/主訴 意識障害、黄疸)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科

本池 晋

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長

村山 寿彦

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、少し馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。どなたもお気軽に御参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

第188回 初期治療講座(会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]
[日本内科学会認定内科更新のための2単位認定]

日時▶平成17年1月29日(土) 15:00~18:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「胸部疾患の画像診断」

座長 熊本市医師会 中路 丈夫

1. 肺結節性陰影の鑑別診断 あきた病院内科 島田 達也
 2. び慢性肺疾患の画像診断-HRCTでどこまでわかるか 済生会熊本病院呼吸器科 一門 和哉
 3. 胸部単純X線検査でどこまでわかる 前公立玉名中央病院院長 木山 程荘
- この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

平成17年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修ホール	会議室	ほか
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
5日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
11日(火)	18:00~19:00 第22回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)	19:00~21:00 第54回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授 荒木 栄一 「生活習慣病としての糖尿病」 国立病院機構京都医療センター院長 葛谷 英嗣	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	8:50~18:05 第10回 国立病院機構熊本医療センター 医学会(第1日目)		
16日(日)	9:00~12:00 第10回 国立病院機構熊本医療センター 医学会(第2日目)		
17日(月)	19:00~20:30 第72回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	17:00~18:00 病理細診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
19日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:00~20:30 第41回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(土)	13:00~16:30 第97回 看護卒後研修(会費制) 「医療接遇実践セミナー ～人(身体と体)を支える院内コーディネーターとして～」 株式会社医療タイムス社 浅羽 恵	16:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会	
24日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
26日(水)	13:00~17:00 平成16年度 院内感染対策研修会 (厚生労働省)(第1日目) 19:00~20:30 第77回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「意識障害を伴う黄疸」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	8:30~17:00 平成16年度 院内感染対策研修会 (厚生労働省)(第2日目) 18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
28日(金)	8:30~17:00 平成16年度 院内感染対策研修会 (厚生労働省)(第3日目)		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
29日(土)	15:00~18:00 第188回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 座長 熊本市医師会 中路 丈夫 「胸部疾患の画像診断」 1. 肺結節性陰影の鑑別診断 あきた病院内科 島田 達也 2. 慢性肺疾患の画像診断—HRC Tでどこまでわかるか— 済生会熊本病院呼吸器科 一門 和哉 3. 胸部単純X線検査でどこまでわかる 前公立玉名中央病院院長 木山 程荘		
31日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)